

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500048		
法人名	医療法人 五紀会		
事業所名	グループホーム白鳥台 すずらん		
所在地	室蘭市白鳥台5丁目20-10		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様に決り事を作らず自由に生活できるようにしている。 ・医療機関に隣接している為、緊急時に対応しやすい状況である。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193500048&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成23年2月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.個人の尊重2、生きがいの成就3、ご家族・地域交流づくりの理念を入職時オリエンテーションで説明し理解を得るようにし、ホーム内への掲示、スタッフには理念シートを作成し個々の意識向上に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人内の通所利用者様が散歩途中に寄られたり、地域の小学校の学芸会、中学校の職場体験の受け入れなど交流しているが、今後も機会を増やしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所単独での活動はできていないが、地域包括支援センター等主催のオレンジネット推進事業等の活動に参加しホームの活動をお知らせしている。運営推進会議に町内会の方等、今後参加して頂くようにしたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し入居、退去状況や行事の内容をご家族にお知らせをし、ご家族からの意見も伺いケアに反映させるようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	室蘭市GH連絡会の席にて市の職員と情報交換を行っています。また、介護申請の手続きや運営についての打ち合わせが必要な時はこちらから出向いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束実施ケースはない。身体拘束を含めての虐待を行う事がないように職員同士注意を払い、マニュアル、倫理綱領をベースとし、高齢者に対する尊敬の心を持ってケアにあたるようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉による虐待がないように職員がお互いにケア時の入居者様の様子を観察し防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回はパンフレットを基に研修をしているが、前回評価時には、地域包括支援センターの方々に研修や地域の最新情報をお願いする事を目標としていた。今年度は実施できるように調整したいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インテーク時、契約時に重ねて説明をし、共同生活を営む上での雰囲気を見学をして頂きながら不安が起らないように配慮している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見聴取や面会時に時間をとって傾聴できるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、会議、ミーティングで意見や提案、試みを話し合い、可能な限りケアに反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者へは、運営会議で意見を聞きサポートしている。職員が働きやすいようなシフト表を作成している。主婦の方も多いので家庭と両立できるように工夫している。また、介護職員処遇改善交付金の申請を行い、法人内外部の研修参加も推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回 介護職員行動チェック表で自己評価を実施し、施設長、管理者が面接を行い目標設定をアドバイスするようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市GH連絡会主催の研修会やその他のケアに関する勉強会に参加を促し、他のグループホームの職員と交流できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ソファでゆっくり会話をするなど利用者様の考えを話しやすい環境を作っている。また、入居者様の様子を観察して困っている事などを汲み取れる努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護上の苦勞が困りごとをゆっくり話してできるようにしている。ご家族が介護疲れや混乱されている事もあるので入居の必要性にズレがご本人と整理している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事がなんなのかを分析し対応している。在宅サービスの導入で解決できないか一緒に検討している。ホーム入居の希望がある場合は体験入居等での生活している様子をみていただき安心して生活できるように支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを引き出しつつ、食事の後片付け、シーツ交換、掃除などもスタッフと一緒にいるという環境を作っている。また、若いスタッフへ激励して下さる場面も見られる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の入居者様への思いを受け止め、日常での変化に気を配り、連絡を密にしている。スタッフの対応だけでは不安が解消せず、精神的に不安定な時には、ご家族に電話をしたり面会をお願いしたりとご家族と共に支えるように心がけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のなじみの人との関係継続の支援として、面会時にお部屋でゆっくり談笑できるように声かけしている。ご家族の協力を得て時折自宅などに外出する機会をつくっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様同士の関係を把握して職員介入、その場の雰囲気など気をつけてトラブルが起こらないようにしている。また孤立しないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で入院された方の面会には行かせて頂くようしているが、定期的ではないので回数を増やて行きたいと考えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや今まで暮らして来られたよう出来るかぎり、それに近づけるように、努力していると思う。自発的に訴える事も少ないのでこちらから声かけを行ったり、本人と話し様子を見ながら暮らしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などご本人やご家族から可能な限り聞き取り、日常での会話や家事等の役割に生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや介護記録を読み返し、暮らしの現状を把握するようにしている。また、家事の手伝いやレク活動での様子から持っている力を発揮できるように工夫している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフで意見を出し合い、必要に応じてモニタリングの中で話し合いが進められている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化が見られた場合は細かく記録しスタッフ間で話し合い介護計画の見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居以前からなじみの美容院へ出かけたり、ホームへ訪問理容院を利用したりご家族と共に外出され食事に行かれたり、外泊も自由にされている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の入居者様への対応にはなっていないが、隣の小学校の行事を見学したり、職場体験に訪れた中学生と交流するなど工夫している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様個々に合わせて、ご家族、看護師と連携をしている。医師とも連携し必要時インフォームドコンセントをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の健康状態の変化があっても、24時間連絡体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の医療相談員と連携を図り、退院可能なレベルを早い時期から調整し、ホームでの受け入れ体制を整えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の健康状態に合わせてご家族、主治医との連絡を密に行うようにしている。必要時、主治医にインフォームドコンセントをお願いしている。また、体調不調時については協力病院の医師とも相談している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ナースからの研修や法人内での研修に参加しているが、繰り返し行い、応急手当、事故発生時の対応は身に付けたいと思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルがあり連絡体制を整備している。避難訓練も年2回行っているが、地域の方への参加までは至っていない		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人一人のその時の状況に合わせて声かけをし持っている力を発揮して頂くようにケアしている。言葉かけや態度に失礼がないように気を配っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の心身の状況に合わせてコミュニケーションを図り、意思を自ら表現できるようにゆったり、優しい声かけをするように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて、起床時間、就寝時間、食事時間を個人のペースとして個別性のある支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出前や入浴での更衣の前には好きな服を選んで頂くように時間をかけている。防寒具もおしゃれなものをご家族に選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしのひげとりなども手伝って頂いて食事時の会話につなげている。また、食べ終わった食器も可能であれば下げて頂き、食器拭きもお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて主食の形状、副食の硬さ、大きさを工夫し嚥下しやすいようにしている。水分量も好みの飲み物を用意するなどで安定できるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日ごろ努力しているが、全ての入居者様にできている訳ではない。拒否される方などは、年に数回こられる歯科衛生士の協力を得て行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄、水分チェック表を活用し尿間隔を確認している。食事や外出の前にはトイレ誘導し、失禁時もさりげなく交換するように心がけている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取時に果物やヨーグルトを使ったおやつを摂取して頂いている。水分量も1日1000mlは摂取して頂くようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む時は無理強いせず、気分、体調に合わせて次の日に繰り越して入浴して頂いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	屋間は体操や掃除のお手伝いで活動しその後、お茶をスタッフと話をしながらゆっくりされ、午後からは臥床されたり、お部屋でタンスの整理をしたりテレビを見たりと自由にされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の内容はファイルがありいつでも確認できる。薬の変更などはその都度看護師より説明がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	チラシでくず入れを作ったり、レク活動で折り紙や塗り絵を楽しんだりされている。男性の方は新聞を朝夕読むことを習慣にされている方もおられます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日には散歩に誘い無理のない距離を考慮している。ドライブや畑仕事など外の空気に触れ、気分転換が図れるようにしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かりしている事が多い。数名はご家族とご相談の上で所持されている。お預りしている場合もご本人の希望により床屋さんや化粧品購入など、自由に使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安を訴えられた時などにご家族に電話をして安心されたり、遠方のご家族からのお手紙を大事にされておられる。お返事を書くサポートなど、今後行っていきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓があり季節を感じる事ができる。また壁に季節ごとに飾りつけを変えたり、清潔で快適に過ごして頂くようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は食卓の座席も自由に座り、話のあった方が談笑されたりソファでテレビを見ながらゆつくりと過ごしている。また、気分が落ち着かれない時は、2階のユニットへ訪問している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、自宅で使用していた家具類を持参して頂き、ご家族の写真や手紙などを置いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やトイレの便器の高さを工夫し個々の体型や身体状況にあったものを使用している。廊下、浴室にも手すりを設置し浴槽も工夫している		